

1年学年通信

アイマスク体験

先週の7日(金)5, 6限の時間に、1年生では福祉体験学習の一環として「アイマスク体験」が行われました。

多くの生徒は事前の内容を聞いて、おそらく「目の見えない」状態を体験して、体のどこかに不自由をもった人の気持ちになる」という目的は持ってくれていたと思います。

しかし、今回の学習では、この目的に加えて「体のどこかに不自由をもった人を手助けするための“できること”探し」にも意識をもって取り組んでもらいました。

アイマスクをつけた友達を誘導してみて、何か気づいたこと、自分にできることは見つかりましたか？



アイマスク体験を振り返って



◎ ビデオを見て、新しく知ったこと気づいたことは？

- ・困っている人を見ると焦って接してしまうけど、逆に不安にさせてしまうということが分かった。
- ・目が見えない人が「すみません」と何回も呼んだり、人に声をかけるのはとても“勇気”がいる。ということに改めて気づかされた。

◎ 体験を終え、困ったこと新しく気づいたことは？

- ・階段の始まりと終わりや段数が分からなくて恐かった。
- ・歩くときにいつもよりも歩幅が小さくなって速さも遅くなった。階段の手すりがありがたく感じた。
- ・歩き慣れている廊下や上り慣れている階段も新しい場所の様に感じた。
- ・ちょっとしたでっぱりや段差がすごく恐かった。だから、道に物を置いてはいけないということは、こういうことかということが分かった。

◎ 学校から家までアイマスクで帰るとしたら、どんな危険や困ったことがありますか？

- ・点字ブロックがない場所がほとんどで、また車が通る道を通って帰らないといけないので一人では帰れないと思った。
- ・赤信号が分からず飛び出してしまったり、家のエレベーターのボタンが押せないと思った。

◎ 体に不自由な部分がある人に街で出会ったら、どんなことができますか？

- ・さりげなく自転車をどけてあげること。
- ・勇気をだして声をかける。声のかけ方にも気をつける。
- ・出来ることは何かを考え、声かけや誘導など行動できるようにする。

今回は、実際に体のどこかに不自由をもった人、また手助けする人の立場になって学習しました。でも体の不自由だけでなく、何か別の理由で困ったことを抱える人にたいしても、相手と同じ気持ちになってみたり、手助けする気持ちが必要であることには変わりありません。

普段の生活の中でなにか困ったことを抱える人が近くにいたら、自分に“できること”を探す、そんなあたたかい習慣が身についてくればな、と思います。

